

報告事例－3

森林環境教育（森林E S D）プログラム分析シート

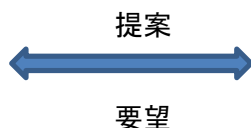
プログラム名： 水のつながりプロジェクト		森と水の源流館 川上村村立川上小学校
(1) プログラムの目標	大和平野及び水源地域のさらなる友好関係を育くむことを目的に、大和平野及び水源地域の小学生がそれぞれの地域で見学、体験を行い、交流することで、水源地域と大和平野が吉野川分水で繋がっていることを感じて大和平野の地理、歴史、及び水源地の役割を学習する。	
(2) プログラムの概要	当プロジェクトは、3回に分けて実施した。第1回（6月15日）は橿原市にて田植え体験と水田の生き物の観察、第2回（9月14日）は、川上村にて環境学習と川の生き物しらべ、第3回（10月20日）は橿原市にて稲刈り体験を実施。	
(3) プログラムの展開		
活動内容について、プログラムの流れで、記載する。 合わせて、段階的な学びとして、3つのタイプのアクティブ・ラーニング（in、about、for）の視点で活動内容を区分してみる。 ・ in（～の中で）－ 体験、観察、製作など（関心・意欲、知識・技能） ・ about（～について）－ 情報収集・分析、情報交換、討論など（知識・技能、思考・判断・表現） ・ for（～のために）－ 提案、実践など（態度、参加・行動）		
時間数	プログラムタイトル	
	活動内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材等）
	in、about、for の視点で活動内容を区分	
1回目 (2時間)	田植え体験と田んぼの生き物観察	
	川上村を源流とする吉野川からつながる吉野川分水の受水地である橿原市の水田にて田植えと生き物観察を行う。	かわかみ（川上小学校）の児童には、いつも見ている川の水が、分水で田んぼの水になっていることを、かわしも（香久山小学校）の児童には、川上村の水がこの場所に来ていることを想像させる。色々な生き物のはたらきが米作りに役立っていることを気づかせる。
	体験・観察	
2回目 (5時間)	源流の水生生物観察と森と水の源流館、大滝ダム見学	
	川上村の吉野川源流部の支流である音無川にて、水生生物を採集して水質を調べ、講師（専門家）による環境学習を行う。森と水の源流館、大滝ダム学べる防災ステーションの見学（ガイドツアー）を行う。	源流を流れる川の水について、水の冷たさ、美しさなどを川に入って水生生物を採集することによって体感的に学びつつ、生き物の種類と水質の指標性を専門家から学び、水源地を守ったり、水を汚さない取り組みや上手に使う取り組みについて施設で学習する。
	体験・観察	
3回目 (2時間 20分)	稲刈り体験	
	1回目に田植えをした水田にて、稲刈り作業を行う。	水のめぐみがお米になったこと、コメ作り、収穫が大変なことを体験を通して理解する。
	体験・観察	

(4) プログラムでの連携内容

(教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容)

大和平野土地改良区
川上村
公財)吉野川紀の川源流物語
(森と水の源流館)

- ・プログラム作成・実施
- ・連絡調整
- ・報告書作成



川上村立川上小学校
檀原市立香久山小学校

- ・学校内の調整
- ・時間の調整

学習指導要領との関連 (例 小学校)

1年	生活：身近な自然の観察、利用
2年	生活：生き物を育てる、成長
3年	社会：飲料水、地域の生活 理科：昆虫と植物（自然の観察、植物を育てる）
4年	社会：都道府県の様子・生活 理科：季節と生物（身近な植物の成長、季節による違い）
5年	社会：国土の自然・環境、国土保全 理科：植物の発芽、成長、結実
6年	社会：歴史上の事象、文化財 理科：生物と環境

総合的な学習 横断的・総合的な課題の学習、社会体験、討論・発表

特別学習 遠足・鑑賞、集団活動・生活

森林環境教育の視点

1 感性的経験	感性的な内容 — 森林の感覚的把握や美的把握、畏敬の念など
2 自然的特性	森林の自然的特性に関わる内容 — 植物や動物の生態など
3 多面的機能	森林と人とのかかわりに関する内容 — 森林の働き、保安林など
4 現状・課題	森林の現状に関する内容 — 森林の荒廃、人手不足など
5 管理・維持	森林の管理・維持に関する内容 — 森林整備、育成、維持、管理など
6 歴史・文化	森林とのかかわり方の歴史 — その土地での歴史、薪炭林、炭焼き

(5) 活動の分析（学習指導要領との関連または森林環境教育の視点） 上位3項目

教科・項目、視点	学習内容
1 感性的経験	田植え、稲刈りを通じて、農作業の大変さを体験し、お米の大切さを学ぶ。 水生生物の採集を通じて、源流の水の冷たさなど自然の美しさを知り、生き物観察の面白さを知る。
2 自然的特性	田んぼの生き物の解説により人間と野生生物の関わりを知る。 源流の水生生物の観察から、水質判定ができることを知り、水を汚してはいけないことを学ぶ。
3 多面的機能	田んぼのお水が源流の川上村の森とつながっていることを知り、源流の森の自然環境を守る大切さを知る。

(6) 活動の分析 (資質・能力の視点)				
E S Dの要素 (生きる力)	能力	1 批判的に考える力	態度	5 他者と協力する態度
		2 未来像を予測して計画をたてる力		6 つながり尊重する態度
		3 多面的、総合的に考える力		7 進んで参加する態度
		4 コミュニケーションを行う力		
資質・能力 三つの柱	①生きて働く「知識・技能」の習得			
	②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成			
	③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養			
次期学習指導要領では、持続可能な開発のための教育（E S D）等の考え方も踏まえつつ、「生きる力」とは何かを、「資質・能力」（三つの柱）に沿って具体化するとしています。 活動を、三つの柱の項目に再整理して記載をしてください。（該当がない項目は空欄）				
項目	E S Dの要素（7つの能力・態度）の視点で見つめ直して、 もっとも重視する視点の内容を記載してください。			
①生きて働く「知識・技能」の習得	田植えや稲刈りの作業は、農家でないとできない体験を経験する。 普段何気なく接している水を森の多様な生き物の働きで生まれていることを知る。			
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	源流の生き物調査などを通して、環境を守るための取り組みについて考える。			
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	田植え、稲刈りを通じて、農家の苦勞を体感的に学び、食べ残しのことや米作りに興味を持つ児童がいた。 源流部での水生生物の観察を通じ、講師より生き物と水の関係が大切なことを学んだ。 これによって、水を汚してはいけないことをわかりやすく伝えていった。			
(7) 実施後、参加者の変化				
田植え、稲刈りの大変さを理解した。 田んぼの生き物が苦手な児童もいたが、そんな生き物でも田んぼの役に立つものがあることが分かった。 お米（食べもの）の大切さを理解した。				
(8) プログラムの今後のめざす方向・展開				
上流と下流での地域のよさを認め合える関係性を不変にしていこうことによって、それぞれの地域を見つめなおしたり、地域づくりにつなげていったりする力にしていこう。				
(9) 現状での課題、質問事項など				
過疎による児童数の減少で、交流するのにちょうどよい人数のかわしもの学校選定が難しい。 川上村に小学校が1校しかないため、村の様々な取組が1校に集中してしまう。				